車両乗り入れ可能仕様も

利用広がる文教Ｐｌａｙタイプ

ケーワンシステム

ケーワンシステム（札幌市、原田慶一社長）が提供する、今までにない高性能のデッキシステム「Ｋ１デッキ文教Ｐｌａｙタイプ」の利用が広がりを見せている。同商品は、ＺＡＭ鋼製床下地と人工木で形成するウッドデッキに、体育館の床に求められる適度な硬さと軟らかさを取り入れたシステム。転倒時のけがを緩和するための緩衝効果値を考慮して開発した。性能を証明するため、硬さ試験や弾力性試験を行っており、体育館ＪＩＳ規格で求められる床の硬さ１００ＧＳ以下を達成。ＪＩＳＡ－６５１９準拠試験（主要部）もクリアし、国内で初めてウッドデッキ上での安全性を数値で実証した。

さらに「文教Ｐｌａｙタイプストロング仕様」では車輌乗り入れを可能にした。文教Ｐｌａｙタイプの支持脚に万協フロアーパイルボルトを採用した高強度仕様だ。同ボルトを使うことで、圧縮強度が高くなるのが試験で証明されている。デッキ床面は、適度な軟らかさを保ちながら、面剛性を高めた。車両乗り入れ試験を、２ﾄﾝトラックなどで行い、総積載荷重量５ﾄﾝまで耐えられることが証明された。緊急車両の乗り入れも可能だ。

文教Playタイプストロング仕様の試験状況。様々な試験で性能を実証する

これまで同システムは、人工木での利用だったが、国産材などムク材ウッドデッキとの組み合わせの要望も増えている。また、杉や桧などの国産材、高温処理材など、地域材を生かす取り組みも増えている。

同社のデッキシステムを愛用する関東圏のウッドデッキ販売施工事業者からは、「同社が２０１６年に東京営業所を開設したことを契機に、同社の鋼製床下地を活用し始めた。施工面の相談もしやすく、施工現場への同行や図面作成支援など幅広いサポートが受けれらるのが大きな利点と感じている。Ｋ１デッキシステムの根太は、直線性の精度が高い鋼製で、この特徴が生きる現場、特に平らで広い面積の施工現場に採用することで、工期短縮の効果を実感している。さらに、工事現場では予期せぬことが起こるため、２０１８年から東京都内で同社の製品が在庫されるようになった点も、安心感がより高まったと評価している」との声も聞かれる。同社は、19年に東京練馬区に新事務所を開設。関東圏への対応もさらに高めていく。問い合わせは同社（電話０３・５８４４・６７６０）まで。